

案内

宗教改革記念日

10月31日は宗教改革記念日です。宗教改革は、ヴィッテンベルク大学の神学教授であったマルティン・ルター(1483~1546)が、ローマ・カトリック教会の贖宥状の妥当性について、1517年のこの日に、95箇条の提題を発表したことを契機としています。宗教改革の基本的な原理は、キリストを信じる信仰によって罪を赦され義とされること(信仰義認)、聖書のみを権威とすること、すべての信仰者は祭司であって福音を宣べ伝えなければならないこと(万人祭司)、などでした。この宗教改革によって生まれた教会がプロテスタント教会です。青山学院大学は、そのプロテスタント教会の中のメソジスト教会の宣教師によって創設されたキリスト教大学です。

礼拝奉唱の紹介

10月28日(水) 大学聖歌隊
曲名:「あめなるよるこび」(C.ウェスレー作詞、C.バーゴン作曲)
指揮:那須 輝彦(文学部教授) 伴奏:身崎 真理子(大学オルガニスト)

礼拝の動画配信について

日々の礼拝について、大学・短大オンライン礼拝サイトで動画配信しております。
以下のURLにアクセスし視聴可能です。

URL: https://www.aoyamagakuin.jp/post_consistency/onlinereihai/



礼拝堂でオンライン礼拝の放映について

学内の皆さま、一部対面授業再開に伴い、授業期間の10:30~11:00、大学礼拝堂を開放し、当日のオンライン礼拝配信動画を上映しています。宗教センタースタッフが、感染防止対策を施していますので、心落ち着ける場として安心してお越しください。

オルガン・メディテーションについて

相模原キャンパスのウェスレー・チャペルでは、オンライン礼拝放映後(約10分間)、オルガニストによるオルガン・メディテーションを不定期で行っております。ウェスレー・チャペル入口にメディテーション実施についての情報を掲示しています。10:55までには終わるようにし、2時限目の授業に間に合うようにしています。

「キリスト教活動のしおり」参照ください

宗教センターのホームページに「キリスト教活動のしおり」を載せました。
参照いただき諸活動について参加ください。

URL:

<https://www.aoyamagakuin.jp/wp-content/uploads/2020/04/2020christianactivity.pdf>



洗礼を受けられた方へ

本学在学中に、教会で洗礼を受けられた方は、以下のメールアドレスにて報告くださるか、または、各キャンパス宗教センターにお申し出ください。

報告先メールアドレス: agcac@aoyamagakuin.jp

青山学院大学・短大礼拝週報

2020. 10. 26.
11. 2.

神の国節第21週
神の国節第22週

No. 23, 24合併号(オンライン礼拝)

キリスト教のシンボル [12]

「宗教改革者ルター」

このシンボルは宗教改革者マルティン・ルターの紋章とされています。ルターはヴィッテンベルク大学の神学教授でしたが、聖書研究をするうちに当時のカトリック教会のあり方に疑問を抱き、1517年10月31日、「95箇条の提題」を大学の正門扉に掲げて、ローマ・カトリック教会を相手に抗議しました。

その結果ルターは破門され追われる身となりますが、これが契機となり、ヨーロッパ全域で宗教改革運動が展開されて、キリスト教は新しい時代を迎えます。カトリック教会を離脱して聖書中心主義の立場をとった教会はプロテスタント教会と呼ばれました。ルターは、「信仰のみ、恵みのみ、聖書のみ」を唱えて、のちにドイツ語訳聖書のほか、数多くの神学書を著しました。

本学の両キャンパスのチャペル入り口の重厚な扉は、ヴィッテンベルク大学の扉をイメージしており、プロテスタント信仰の原点を思わせられます。またプロテスタント教会では、毎年10月31日を宗教改革記念日として覚えます。



今年度の主題聖句

平和を尋ね求め、追い求めよ。(詩編 第34編 15節)

礼拝動画配信は以下のサイトで

https://www.aoyamagakuin.jp/post_consistency/onlinereihai/



今週の聖句

神の国節第21週

「あなたがたは律法の下ではなく、恵みの下にいるのです。」

(ローマの信徒への手紙 第6章14節)

解説：「律法」とは聖書に記された神の戒めであり、守るべきものですが、誰もその要求に完全に応じることはできません。そのため「律法の下」では「罪の自覚しか生じない」(ロマ3:20)のです。ところが神の愛の業により、私たちは「恵みの下」に移されました。イエス・キリストが十字架で身代わりの犠牲となることで、私たちの罪を償ってくださったからです。もはや罪の自覚に押しつぶされることなく、神の愛に感謝して生きて良いのです。

10月26日(月)

司式 高砂 民宣
奨励 玉木 欽也
(経営学部教授)

前奏 奏楽 越川伊豆美

招詞

讃美歌 「御名をほめたたえる歌声より」

聖書 ヨハネ 16:7~15
(新200頁)

奨励 「聖霊があなたの
内に住み力づける
—1人ポッチじゃないヨ—」

祈禱

祝福と派遣

後奏

10月27日(火)

コンテンポラリー礼拝

聖書 ローマ 5:8
(新279頁)

メッセージ

「宗教が嫌い。
でも神様を信じたい。」

シュー土戸 ポール
(学院副院長・大学宗教主任)

ワーシップ・ディレクター
塩谷 達也

10月28日(水)

説教 伊藤 悟
(大学宗教主任)

前奏 奏楽 越川伊豆美

招詞

聖書 出エジプト 3:4~6
(旧96頁)

奉唱 聖歌隊

説教 「履物を脱ぎなさい」

祈禱

祝福と派遣

後奏

10月29日(木)

宗教改革記念礼拝

説教 大島 力
(学院宗教部長・大学宗教主任)

前奏 奏楽 越川伊豆美

招詞

讃美歌21 377(1節)

聖書 ローマ 1:16,17
(新273頁)

説教 「新しい発見」

祈禱

祝福と派遣

後奏

10月30日(金)

(青山祭期間)

神の国節第22週

「悔い改めて、お前たちのすべての背きから立ち帰れ。」

(エゼキエル書 第18章30節)

解説：「背く」と「立ち帰る」ことは、両方とも神を基点としています。神から離れることが「背く」ことであり、神に近づくことが「立ち帰る」ことです。自分が神に背いていたと気が付いた時には、過去の「すべての背きを投げ捨てて」(31節)、戻ってくるようにと神は呼び掛けています。どんなに遠くまで神から離れてしまっても、くじけずに、私たちが勇気を振り絞って、新しい心で、神と共に生き直すことを神は望んでいるのです。

11月2日(月)

(青山祭期間)

11月3日(火)

(文化の日)

11月4日(水)

説教 塩谷 直也
(大学宗教部長)

前奏 奏楽 鷲 晶子

招詞

讃美歌21 107(1節)

聖書 詩編 55:7~9

(旧888頁)

説教 「人に翼がない理由」

祈禱

祝福と派遣

後奏

11月5日(木)

説教 高砂 民宣
(大学宗教主任)

前奏 奏楽 鷲 晶子

招詞

讃美歌21 515(1節)

聖書 IIコリント 4:18
(新330頁)

説教 「見えないものに
目を注ぐ」

祈禱

祝福と派遣

後奏

11月6日(金)

司式 藤原 淳賀
奨励 村上 広史
(地球社会共生学部教授)

前奏 奏楽 鷲 晶子

招詞

讃美歌21 474(1節)

聖書 イザヤ 43:4
(旧1130頁)

奨励 「究極の『いいね!』」

祈禱

祝福と派遣

後奏

聖書(旧):旧約聖書
聖書(新):新約聖書

讃美歌21:1997年版『讃美歌21』
讃美歌:1954年版『讃美歌』

10/26(月):福音讃美歌協会[編] 245